

世界が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が引き起こしたパンデミックから徐々に抜け出しつつある中、国際NGOプラン・インターナショナルは、女の子と若い女性の政治参加に焦点をあてた「世界ガールズ・レポート2022」を発表した。この報告書は、29カ国の様々な地域、所得水準、市民社会に所属する15～24歳の女の子と若い女性約2万9,000人を対象に実施した大規模な調査に基づき作成された。さらに、18カ国において、リサーチャーによる女の子と若い女性94人への詳細なインタビューが行われた。

「女性として気づいたのは、政治的な議論に参加するための準備が、男性や男の子とはまったく異なるということです。男性や男の子は、もともと政治活動に身を置くことが奨励されているのに対し、女性や女の子は、『女性であるために、政治活動が自分のためのものではない』と感じているのです。」

アンナ、23歳、ドイツ

女の子は均質ではなく、意見や経験も多様である。個人として、また場所や民族、宗教、性自認、性的指向、その他多くの交差性（インターセクショナリティ）により異なってくる。本調査は、様々な背景を持つ女の子たちの政治的・市民的参加や制度への態度や経験を、異なる部分と共通する部分の両方から探り、理解することを目的にしている。

レポートを通じて明らかにしたかったこと

- **女の子や若い女性は政治をどのように捉えているのか、また、どのような政治課題を優先しているのか？**
- **政治リーダーをどのように見ているか、また、政治的領域において彼女たちが代表として適切に選出されていると感じているか？**
- **政治参加の決断に影響を与えるものは何か？何が彼女らを思いとどまらせ、何が彼女らを奮い立たせるのか？**
- **彼女らが重要だと感じている問題やキャンペーンにもっと積極的に参加できるようにするには、どのような戦略や支援が必要か？**

政治的な意思決定は、最も配慮を必要としている場所や人々からかけ離れた場所で行われることが多い。であるからこそ、女の子や若い女性が声を上げ、自分の意見や経験、権利を、意思決定プロセスに反映させることは、極めて重要である。それは政治に参加する権利として、また政策に情報を反映させ、生活と機会の向上を目指すプログラムを設計し、ジェンダー平等を推進するためにも重要なのだ。

「『政治』と聞くと、国務という意味での『政治』をイメージします…。ビジネス、国のビジネスという意味です。統治する方法であり国家を管理する方法です。」

ミネルバ、23歳、トーゴ

全体としてみると、女の子や若い女性は、政治をより正式な国務に関係するものと定義していたが、実際には彼女たち自身、多岐にわたって政治に関与していた。政治問題への関与の多くは、地域レベルでなされていた。彼女たちは、環境、貧困、教育、そして自分たちのコミュニティや日常生活に影響を与える政治的決定に関心を持っていた。

「私たちは食べるための
トウモロコシを買うお金もありません。
隣に住む女の子は、1日に1回しか食べられず、
物乞いしなければならないのです。」

アリス、16歳、ベナン

気候変動、貧困、飢餓、紛争は無視できず、思春期の女の子や若い女性は年齢を重ねるにつれ、政治的な意識を高め、社会問題に関心を持ち始め、地域や国の決定が自分たちの生活にどのように影響するかをますます意識するようになってくる。

「私たちは政治的な議論に参加するには若すぎるしものを知らないと思われているのです。だから女の子の発言は、優先する必要はないと思われるのです。」

アマンダ、15歳、ブラジル



Credit: House of Lords / Roger Harris

女の子たちの声

この調査から、女の子や若い女性が、地域レベルでも国レベルでも
政治参加に関心を持っていることが明らかになった。

97%

の回答者が **政治に参加することは重要だ**と考えている。

83%

の回答者が、**政治に参加したり関与した経験**がある。

63%

の回答者が、**何らかのグループや団体に属しており**、市民活動への参加度が高い。

女の子や若い女性は、**投票や署名活動から、多様な若者運動への参加、学校評議会への参加など、**様々な方法で政治的活動を積極的に行っている。

3人に1人以下

「政治家や政治指導者は女の子や若い女性の意見を理解している」との意見に同意したのは3人に1人もいなかった。

女の子や若い女性は、**貧困や失業、環境、教育、保健など、**様々な問題に関心を持っている。

女の子や若い女性は、政治家が自分たちを適切に代弁していないと感じている。

11%

の回答者だけが**彼女たちが関心を持つ問題に対する指導者の決定に概ね満足している**と回答した。

LGBTIQ+の人たちやマイノリティの人たちは、政治的リーダーシップに対しより否定的な意見を持っていた。

24%

政治に関わりたいと考えている人のうち、**実際に自分が政治家になることを想像していた**のは24%だった。

5人に1人

は、**政治への個人的な関与や参加を思いとどまった**ことがある。

10人に1人

は、**女性は政治指導者になる資格がない** と思っている。

50%

自分たちのコミュニティでは女の子や若い女性が政治活動に従事することは容認されていると考えているのは2人に1人に過ぎない。

ジェンダー規範は依然として女の子たちの足かせとなっている。
中には女性の政治家や活動家が受けているいじめやハラスメントを
目の当たりにしている女の子たちもいる。

女の子と若い女性は、政治参加が重要であることを知っているが、同時に自分たちが直面している課題を十分に理解している。回答者の94%が、自分たちの行く手を阻む障壁を認識している。

「目を閉じて政治家である自分を想像してみる……。
私たちに思い浮かぶイメージは
ネクタイを締めた男性の姿です。
だからこそ、女性、それも若い女性が
政治の世界にいることを想像するのは難しいのです。
これは、私たちが世代から世代へと伝えられてきた
規範の一種なのです。」

アウロラ、20歳、エクアドル

こうした障壁は構造的なものであると同時に、意思決定の機会不足、知識やスキルが不足しているという認識、女の子や若い女性が政治に参加することが適切ではないとする周囲の考えなど、個人的なものでもあります。一部の国では、議会や地方議会において女性が代表になることは改善されてきているとはいえ、依然としてロールモデルが不足しており、女の子や女性の権利が広く後退している場面が散見される。

「女性リーダーは過小評価されています。
多くの人は、自分には無理だろうと
思っています。それが問題なのです。」

ダーナ、16歳、フィリピン

女の子と若い女性には、地域、国、国際社会で、
自分たちの人生に影響を与える決定に参加する権利があり、
これを実現する方法はある。

女の子の政治参加を拡大させる4つの道すじ

→ あらゆるレベルの意思決定者

は、十分な資金と説明責任を備えた政策や戦略、枠組みを採用することで、女の子とそのグループが有意義で安全な政治参加ができるよう制度化しなければならない。

→ 国および地方自治体

は、政治参加に向けた多様で包括的な道筋へのアクセスを確保しなければならない。これには、市民教育やリーダーシップの機会への資金提供や強化、地域の意思決定プロセスへの女の子の参加の促進が含まれる。

→ 政府とSNS企業

は、暴力を決して許さない姿勢を示し、女性政治家と女の子の活動家が経験する暴力に断固とした措置を取らなければならない。メディアは、女性の政治参加に対する好ましいイメージを促進し、オンラインとオフライン両方の空間で発生する暴力への注意を喚起することで、女性の政治参加を後押しすることができる。

→ 国連、政府、市民社会

は、市民社会において女の子が果たす重要かつ明確な役割を認識し、女の子が参加する組織の危機や外的脅威に対する耐性や持続可能性を高め、彼女たちが利用しやすい資源を提供する必要がある。

女の子や若い女性は、その多様性の中で、**自身や自らが所属する組織が地域社会や国の将来に対し役割を果たせるよう、組織化し結集する**ために、あらゆる支援を必要としている。

「『仲間』ができれば怖くありません。『仲間』は大勢います。一人で何かをするのは大変です」

ロザミー、16歳、フィリピン

THE STATE OF THE WORLD'S GIRLS
2022

FOR A FULL BREAKDOWN OF RESEARCH FINDINGS: PLAN-INTERNATIONAL.ORG/EQUAL-POWER-NOW